

小吹さんのお話を聞いて

- ① たった二時間の授業時間で、この二つの事柄を、概要・定義、問題点、解決法、実際の商品例、その内訳などをわかりやすく、コンパクトに説明して頂いたので、一学期に学んだ授業の理解を深めることができました。例えばフェアトレード、ラベルの日本における認知度の低さはやはり大きな障害となっていることや、その一方で、イオンなど比較的他の商品で利益を得ている会社が、それに関心を持ち始めていることなど、現場の状況がフェアトレードに対する僕らの関心を高めてくれたと思います。そしてメモやレジュメ(スライド)を見直して、一番に感じたのは、実際に携わっている方の問題に対する視点、アプローチは多角的で合理的であり、打ち出されたシステムはほぼ全てのニーズに応えた、素晴らしいものであるということです。一つ一つまとめることはできませんが、大きく言えば、お金の流れ に絡めて、フェアトレード、エコ貯金、エコビジネス、マイクロファイナンス(クレジット)の利点が説明され、さらには社会性の必要性が提唱され、そして寄付ではなく、新しい国際協力の形(オイコクレジット)の合理性が証明され、それがまた貧困の解決と女性の社会進出につながり・・・と、様々なアプローチは様々な可能性を生むことがわかりました。フェアトレード、マイクロファイナンスに対する理解と同時に、やはり授業のテーマでもあるこの姿勢、多面的なものの考え方が求められるということも、感じ取れました。自分はあまり深く考へなかつた前回の日中・日韓関係にも、様々なアプローチ、つまり多角的な視点は有効であることは大学生の意見にもありましたが、重要であるなどここからも考えられるような気がします。
- ② 今回、フェアトレードについての授業を通して、自分達が世界的に見れば、凄く豊かな生活をしているという事をヒシヒシと感じました。今、受験勉強に重点をおいて生活している私達に対し、食料を手に入れる事や住む場所を確保する事に重点をおいている人もいます。僕の今の目標は希望の進路への合格なのに対し、明日生き延びる事が目標である人もいます。人間の欲は果てしない、と改めて思いました。私達は明日食料がある事は、ほぼ確定条件だから受験勉強が出来るのであって、世界の多くの人はその確定条件ではない。今回の授業でフェアトレードの事も学んだけれど、いま自分のいる環境がどれだけ良いか、という事を考えさせられる授業でした。僕は普段生活していて、自分が世界的に見て裕福な方だなどと思う事はほぼありません。ほとんどの人がそうだと思います。でも、今回の授業はそういう事を感じる事が出来た時間でした。『これからは贅沢をしない生活をしよう』などは思いませんが、『せっかくこんなに恵まれた環境に生まれる事が出来たのだから、自分のやりたい事をして納得のいく生き方をしよう』と思いました。もちろんフェアトレードの商品を見かけたら買うようにしたりはしますが、自分ができる事は本当に微力ですが、少しでも多くの人々が今より良い生活が出来るように自分に出来る事はしようと思います。お忙しい中、授業をしてくださりありがとうございました。
- ③ 私は、小吹さんの授業に参加し、学ぶ事がたくさんありました。フェアトレードについて、『FAIR spirits』という分かりやすい資料とパワーポイントで、理解が進みました。私がまず驚いたのは、チョコレート・コーヒー・バナナなどの私達の身近なものの流通に、想像以上にたくさんの方が関わっていることです。その人々各々に、賃金を払うので、当然一人の取り分は少なくなりますよね。生産者の利益の増加のための貿易スタイルがフェアトレードであることや、最低価格保障の取り決めの理由には『投機マネー』や『児童労働』などに対する対策としての意味もあることを知りました。次に驚いたのは、日本と現地のチョコレートに対する含有量の差異です。普段おやつ感覚で口に放り投げているチョコレートにも、国家間の相違がみてとれるし、そのひとかけらに左右されて色々なひとの暮らしが変化することを鑑みれば、チョコレートに対する見方が変わってきます。フェアトレード商品は自分の志望大などにも売っているので、機会があれば買ってみたいと思います。マイクロファイナンスの授業では、『お金を預ける』ことで世界を変えることをテーマに、お金の行方や、金融機関の選択、リーマンショックやIMFのことなど、金融の様々なことを学びました。今回の二回の授業だけでも共通する言葉や現状がでてきたので、やはり世界はある意味芋づる式に繋がっていることを再確認しました。世界が、良い『つる』で繋がることを願っています。
- ④ 今までの授業で習ってきた第三世界から今日はフェアトレードについて話を聞きました。最初に第三世界を調べてから、本当に色々なことに関連しているんだなと思いました。今回のフェアトレードの説明を聞いて、パンフレットなどにもあるように身近なところに、フェアトレード商品を扱うお店がたくさんあることを初めて知りました。今回の授業で聞いた中で、私が印象に残っていることは子どもが働いているということです。日本でも高校生などがバイトをしているというのはよくありますが、世界では私たちよりも小さい子たちが学校にも行けずに朝の5時から働いているというのを聞いて驚きました。カカオを生産するために児童労働があり、週に100時間以上働いているという事実がある。そして世界では6人に1人の子が働いているという状況は変えられ

ないのかなと思いました。私たちがフェアトレード商品を買うことで少しでも農家に入るお金が増えれば、児童労働も減ると思うのもっと意識して買い物をしようと思いました。

⑤まず初めの授業のフェアトレードの話について、以前にも授業で聞いたことがあったのですが、今回の授業でとても時間をかけて説明していただけてよくわかりました。身近なところにフェアトレードの商品が売っていることを知らなかつたので、授業が終わったその日からちょっと気になるようになりました。生産している人たちにほとんどお金が入っていないというのも、だいたいは知っていましたが、ここまで安いとは思っていなかったのが驚きました。もっと世界の人々が幸せに暮らす方法はないのだろうかと考えますが、なかなか思いつきませんでした。

次の授業のマイクロファイナンスの話は、難しくてあまり理解できませんでした。僕たちが銀行にお金を預けることによって起こることや、投資と融資の違いや、何となく経済学の話のようでした。もしかしたら僕は大学で経済学を学ぶかもしれないので、このような授業なんだと思いながら受けました。ためになる話を聞いてよかったです。

⑥今回はお金の話でした。興味深いですが、よく分からない部分がたくさんありました。やはり経済の勉強をしなくてはならないなと感じました。よく分からなかつたのですが、銀行というものはとても大きな仕事をしているのだなと思いました。銀行なんてどこも同じだと思っていたので、適当に郵貯銀行にしていますが、今回の話を聞いてびっくりしました。

銀行がクラスター爆弾を作ってる会社に融資しているなんて全く知りませんでした。興味を示さなかつた自分も悪いと思いますが、もうすこしこのようなことは公開するようにしてほしいと感じました。まず知らなければどうすることも出来ないことを、改めて感じます。今日の授業が無ければ僕はずっと知らぬままでいたのかと思うと、何か恥ずかしくなります。原発事故をはじめ、日本の情報公開はすごく弱いものだと感じます。そんな中、やはり僕たちは自分から求めていくべきだと思います。求めなければならぬと思います。今回の授業を通して、僕はすごく無知だと感じました。その無知が間接的ではあるけれど、知らず知らずのうちに世界の貧しい人々を苦しめているのかと思うと何か悲しいです。今回のように少し学ぶだけで、目も向かなかつたフェアトレード商品に、少し目がいくようになるのです。少し学ぶことで、文字通り視野が広がるのです。自分で求め、色々なことを知り、もっと大きな世界に住みたいと思いました。

⑦フェアトレードは一学期詳しく調べたつもりでしたが、今回の授業ではそれがまだまだだったことに気づきました。知らなかつたことは、フェアトレードは食べ物だけでなく服などにもあることです。私はコーヒーが飲めないで値段はあまり知らなかつたのですが、コーヒー農家が一杯のコーヒーでもらえるお金がたったの7、8円ということにすごく驚きました。それだけのお金で生活ができるのか、とか理不尽な価格決定でコーヒー農家たちは抗議とかしないのかなどたくさん疑問がわきました。やっぱり世の中弱者と強者がいるから成り立つんだと正直思ってしまう。私は、民族系の服が好きなので、今度からフェアトレードを行っているお店で服を選んでみようかなと思います。現地の人が一生涯懸命手作りした服を自分が買うことによってその人たちに少しでも役に立てるなんて、素敵なことだと思うし、私のような普通の人でもできるのですごいシステムだなと思いました。もうひとつ、知らなかつたのは、私たちが銀行に預けたお金がどこにいつているのかということです。第一私は、預けたお金が使われていることも知らなかつたし、環境破壊している会社などに間接的に手を貸していたなんて知りませんでした。「知らない」ということは、損なことだと思いました。大人になったらちゃんと調べて社会に少しでも貢献できる大人になりたいと思いました。

⑧私は小吹さんからお話を聞くまでフェアトレードの意味がイマイチわかっていませんでした。生産者の人にはほんのわずかしき利益がないと聞いてびっくりしました。小吹さんが見せて下さつたグラフにも100%の利益のうちたったの0.3%ぐらいしか生産者の人の元にお金がいかないと聞いて、不平等だと思いました。生産者の方がいるおかげで自分達はそれを食べたり飲んだりすることが出来るので、フェアトレードの制度を聞いてとても素晴らしいなと思いました。フェアトレード・カタログに載っている商品を見たら、スーパーで見たことがあるものがあつたけど、今まではフェアトレード商品だとは思わなかつたので、今度から買ってみようと思いました。日本ではフェアトレードの認知度がかなり低いので、スターバックスやイオンや無印良品でもフェアトレード商品

が扱われているように、もっとフェアトレード商品が増えていって、一般化されたらいいなと思いました。世界の人口の6人に1人が人件費を抑制するために週100時間以上も児童労働をさせられていると聞いてびっくりしました。アフリカでは3人に1人と聞いたので、こういう子供たちのためにももっとフェアトレードを普及させていくべきだと思います。小吹さんのお話を聞いてもっと自分でも地域にあるフェアトレード商品が売っている店などを調べてみたいと思いました。本当にありがとうございました。

⑨フェアトレードは何度か、学んだことがありますが、あまり詳しく知りませんでした。普段買う品物と、フェアトレードの製品がどう違うのか、その製品を買うことによって、どれだけのひとにどれだけ収入が入るのか学べました。世の中では弱いひとが苦しい思いをしています。カカオ農家で働く子供達はその例だと学びました。厳しい労働条件で、低い賃金で働かされています。

そのようなひとをたすけるために、フェアトレードということは私達ができることの一つだということがわかりました。しかしフェアトレードの製品はとても値段が高いので、もう少しや低価格になれば、私達も、進んで買えると思います。次に買い物に言ったときに、フェアトレードの製品を探そうと思います。

⑩授業で勉強し、何となくは分かっていたつもりフェアトレード。ですが今回の授業、特にフェアトレード認定商品には認定マークがついているという事を知って驚きました。私が普段商品を手にする時にも気付かない内にフェアトレード認定商品を選んでいたり、または選んでいなかったりするのかなあと、フェアトレードの意味とその認定マークを知っておくだけでもかなりの違いが生まれるのではないかと思います。家に帰ってから早速母にフェアトレードについて話をしてみました。やはり母もフェアトレードについては全く知らず、マークの事を話すとこれから買い物の時にはフェアトレードや認定マークについて意識してみると言っていました。私は、まだまだフェアトレードについて知らない人が多い現状の中で、まずは私達の買い物とフェアトレードや生産者がどのように関わり合っているのかを知り、常にそれを意識しておく事が大切だと強く感じました。

⑪わたしは小吹さんのお話を聞いて、まずフェアトレードについて理解をより深めることができました。フェアトレードの制度は、わたしたちの身のまわりには関係ないものだと思っていましたが、コーヒー豆や衣服に使われている布など身近に感じることに驚きました。フェアトレードの商品を購入することによって、間接的にですがその国の利益に貢献できるので、値段は少し高めなので今は買えませんが、大人になっても学んだことを忘れずに行動に移したいなと思っています。マイクロファイナンスのお話では、利子をふつうの額ではなく格安で貸すことを実際に行っていることを聞いて、びっくりしましたし、とても人のことを思った素晴らしい制度だと思いました。マイクロファイナンスについて全く知らなかったのも、本当に驚きました。この制度のおかげで助かった人々がたくさんいらっしゃることも事実なので、この制度が貧困に苦しむ国に多く広がって欲しいと思いました。今回のお話は知らないことがたくさんあってとても勉強になりました。

⑫私は今までフェアトレードってそこまで大事なことなのかなと思っていました。しかし、今回のお話を聞いてやっとフェアトレードというものの大切さ、意味、その背景に何があるのか少しわかったと思います。私たちが普段何気なく飲んだり食べたりしているものは生産地の人が自分たちが生きるために一生懸命作ったもの。でも生産者の人が一生懸命作った商品売って得るお金はほんの数パーセント足らず。もし自分が生産者ならきっと納得がいかないと思います。でもどうすることも出来ずにいると思います。そんな人たちにとってフェアトレードは希望になっているんだなと感じました。フェアトレードをすることによって収入は増え、子供を学校に通わせてあげることが出来るし、日々の生活もゆとりができるなどとても素晴らしいと思いました。また、この取り組みをすることによって、少しずつでも消費者に知ってもらえることが出来ると思います。夏に関西学院大学のオープンキャンパスに行ったときに少しフェアトレードの商品を見たのですが、何も買いませんでした。その時はあまり興味も無かったし、少しのぞいてみようくらいの気持ちでした。今となってはもっとちゃんと見て、何か買えばよかったと後悔しています。スターバックスや KALDI、無印商品などは身近にあるので、一度フェア

トレード商品を買ってみようと思います。

⑬私は小吹さんの話を聞くまでフェアトレードやマイクロファイナンスという仕組みがあることを知りませんでした。フェアトレードで印象に残っていることは、フェアトレードをしないと農家に収入がほとんど無いということです。私たちが何気なく安いものを買うことにより、世界のどこかで貧困に苦しんでいる人たちがいるなんて考えもしませんでした。フェアトレードの商品は少し高いけれど、それで農家の生活が安定し、児童労働が減るなら出来る限り買いたいと思いました。

またマイクロファイナンスの話を聞いて、私はお金についてもっと考える必要があると学びました。銀行は便利で、使いやすければどこでもいいと思っていたけれど、私たちが預けたお金が、環境破壊や戦争のために使われていると知り、すごく衝撃を受けました。それと同時に自分で選ぶことの大切さが分かりました。

フェアトレードもマイクロファイナンスも自分が何を選ぶかで世界は変わっていくんだと感じました。もっと色々な人に知ってもらい、広がって欲しいと思いました。

⑭フェアトレードの発想は、寄付とは違い現地の人々が自立した生活を送る為に必要な発想だと今回の講演を聞いて感じました。まだ価格や参加企業の数など問題点がありますが、これが改善されていけば貧困な地域との差が少しずつ改善されていくと思います。何よりも“寄付ではない”という点は大きいと思います。寄付だと何もしなくてもお金や食糧を提供してもらえるので、寄付に依存してしまう人が少なからず出てくると思います。そうなるともし寄付が途切れてしまった場合、今以上に貧困になってしまい世界での格差はさらに広がってしまいます。フェアトレードはあくまで現地の人々が作ったものを公平な値段で取引され、最低価格が保障されています。働いた分だけそれ相応のお金が手に入るので仕事にも力が入ると思いますし、自立に繋がると思います。今まで私は寄付をすることによって困っている国の人々を助けることができるという考えがありましたが、それは一時的なものであって持続できる保障されることはない、ということが今回の話でよくわかりました。フェアトレードが広がっても、買わなくては意味がありません。価格もまだ高く、フェアトレード商品も少ないのでまだ高校生の私達が購入するのは難しいですが、これから先普及していつか品物を選ぶときの基準になるまで広がるといいなと思います。

⑮10月5日の4・5時間目にフェアトレード・サマサマ事務局長兼オイコクレジット事務局長の小吹岳志さんの話を聞いて、今まで「フェアトレード」という言葉は名称だけで具体的な内容は知らなかったけど、小吹さんのパソコンを使った分かりやすい説明を受けてフェアトレードとは開発途上国の商品を適正価格で取引することだと理解することができました。またフェアトレード商品を買うことで、発展途上国の人々の生活が楽になり子供達が教育を受けられるようになって発展途上国の人々の生活に好循環を生み出すことを知ることができたし、フェアトレードの商品がコンビニやイオンなど身近なお店で販売していることも知る事ができ、今後コンビニやイオンなどを訪れる機会があれば、フェアトレード商品を探したり買ったりしたいと思いました。また小吹さんの話を聞いている内にNGOなどの団体にも興味を持つことができ、将来NGOで働くのも悪くないと思うことができました。

⑯フェアトレードは1学期に自分たちで調べたくらいでしたが、今回その学んだことをより学べて良かったです。私たちがいつも食べているチョコレートなどでも、私よりも小さい子供たちが一生懸命はたらいっていることを改めて考えさせられました。最近日本にもフェアトレードの商品が増え、私の住んでいる近くにもたくさんフェアトレードの商品を置いているお店があることを初めて知りました。私は今までフェアトレードの言葉くらいしか知らず、まったく関心がありませんでしたが、私がフェアトレードの商品を買うことで、多くの子供たちが学校に通えるようになり、病気の人たちが治療を受けることができるというような少しでも第三世界で生きている人たちが、満足に暮らしていけるようになるのなら、たまにしか買い物なんて行かないけれど、これからは気にし

てフェアトレードのマークを探してみたいと思いました。

⑰フェアトレードの話聞いて、店で商品を買うときは、フェアトレードのマークがあるか気にして買おうと思いました。自分が身近に買う商品が世界の人たちとつながっていると感じました。身近な所からでも国際協力はできると思いました。ただ援助するだけでなくビジネスの仕方などの他の国と対等の関係を築くようにしていると聞いて、自分はとても共感できました。やっぱり人はどんな人でも、それを理解しないとイケませんが、やり方を教えてもらえば成長できると思いました。また午後からのお金の流れの話をしてきて経済学はとても実践的な学問だと思いました。お金の流れを少し変えるだけで途上国の人たちの生活を変えることができることに驚きました。大人になったらそういった銀行に預けてみようと思いました。今回の授業を通して今までの授業もそうですが、自分たちの生活は色んなことが絡んでいて、他人事では済ませられないなと思いました。大人になったら社会に貢献できるような人になりたいと思いました。

⑱私は今回のフェアトレードの授業を受けて、フェアトレードの意味、重要性を改めて知ることができました。今まで、授業でも発表などありましたが、難しいということを利用して興味を持つこともなく聞き流していました。しかし、今回の授業ではその難しい話を噛み砕いて講義していただき、私なりに理解することができました。まず痛感したことは、私が今まで買い物などをする際、値段が安いものばかりを求めていた結果、私自身は得をしますが、世界のどこかで必ず苦しむ人がいるということを知りました。日本を含む先進国で、供給者が私のように安いものを求めてしまうと、発展途上国では飢餓など残酷な事態が起こってしまうことを実感し、複雑な心境になりました。そこで発展途上国の飢餓や貧困を改善するために大きなことを考えるのではなく、買い物などの際、自分の得ばかりを考えずにフェアトレードの商品に感心をもち、選んでみようと思いました。自分の行う小さなことが、途上国が発展することに繋がると信じて行動したいと思います。

⑲小吹さんの話はとてもわかりやすく、また途中でクイズもあったので最後まで集中して聞くことができました。はじめて聞くことがいくつもありました。一つ目は銀行の仕組みです。その仕組みの中でも、爆弾をつくる企業に融資をしているということにとっても驚かされました。確かに兵器を生産する企業に融資することは莫大な利益をうむのだと思いますがそのような企業に日本の銀行が融資しているという事実を知って落胆しました。二つ目は MFI という機関があり、そして発展途上国に融資しているということです。話を聞いていると、少しでも途上国のためになるなら、銀行にお金を預けるよりも MFI に出資するほうがよいと感じました。三つ目は途上国の児童労働です。子供が銃を持っている写真を見たときはとても悲しい気持ちになりました。今の僕たちには小さなことしかできませんが、その小さなことを続けること、またその小さな活動を広めていくことが問題解決につながっていくと思います。僕はまずフェアトレード製品を買うことから始めてみようとおもいます。

⑳フェアトレードについて勉強して、自分たちは日頃から価格はより安いものを求める傾向がかなりあります。自分も安ければ安い程良いと考えていました。しかし、小吹さんの話を聞いて、フェアトレードについて少し興味を持ちました。途上国を助ける方法としてフェアトレードというものがあることを知ることができ、さらにこのフェアトレード製品を買うことによって、協力することができるので、さらに興味を持つことができました。私の良く知るスーパーなどでも売っていることを知って、自分も買いたいと考えました。自分たちも途上国を助けたいとおもえました。マイクロファイナンスというものは知りませんでした。今回マイクロファイナンスというものを知って、銀行というものは本当に複雑だって、森林破壊などを行っている会社にも融資していたり、武器（クラスター爆弾）を造る会社にも融資していたり、という悪い面もありました。しかし、途上国を助けるためにお金を貸して、発展できるようにするという良い一面もありました。銀行が途上国を助けるためには、世間的にあまりよくない会社にも融資することも必要なことなのかを考えました。今回、お話を聞くことができて本当によかったです。もっと世界の状況や解決法などの様々なことを学びたいと考えました。

21 フェアトレードという言葉は聞いたことがありけど、イマイチ、人に説明しろと言われてたら少し言葉が詰まっています。今、フェアトレードという活動をしていたことも知らなかったし、身の周りに、フェアトレードの商品が売っていることも知りませんでした。自分は政治・経済の授業がないので、こういう勉強もしたいと思っていました。社会的金融とマイクロファイナンスという事も詳しく知ることができ、とても勉強になりました。自分たちが貧困などで困っている外国に対してできることはまだ自分たちが知らないだけでたくさんあるんだと思いました。金融の動きを学ぶことは将来自分が仕事に就いた時に困らないし、外国の人たちのために貢献することも可能です。フェアトレードは人件費抑制のために蔓延する児童労働の解決につながると危機、子どもでもそれらの商品を買うことで参加できるのではと思いました。NGOでの活動は資金が足りない聞いて、もっと募金などをして日本の国民全員が何らかの形で協力する方法を考えた方がよいと思います。あの人はやっいてあの人はしていないというのはいけないと思うので、全員で協力した方がよいと思います。

22:フェアトレードは以前、授業で少しならったことがあったので、なんとなくイメージはありました。でも、小吹さんの講義を受けて他人事ではないと思いました。私たちが身近でチョコレートやお菓子を買えば買うほど、途上国の人たちを苦しめてることがわかりました。アフリカでは3人に1人の子どもが働いていたり、100円のモノが8円しかつった人にわたらなかつたり、日本では考えられないと思います。改めて、日本人は裕福だと思い、途上国との差が激しいと思いました。このような事態になっているのを知っている人はほとんどいないと思います。実際、認知度は日本では14%です。たくさんの人にフェアトレードのことを知ってもらいたいです。こんなことを言っても私はコンビニなどでチョコレートをかうことをやめることはないと思いますが、週1回でも、フェアトレード製品を買おうと思いました。マイクロファイナンスに関しては、私にとってむずかしいので自分ができることをしようと思います。

23:以前21世紀国債の授業で何人かの人フェアトレードについて発表していた時は自分が発表が心配でほとんど内容が頭に入ってなくて、もったいないことをしたので今回こそはと思い聞いていると身近なことも取り上げてくださっていたのでわかりやすかつたです。自分は外国のチョコレートが好きで少々高いと思ながらもよく食べるので知らない間に少しでも世のためになることができたとわかつてうれしかつたです。今まで何となく貯金をし、自分たちのお金がどうなっているのかなんて気にもしていませんでした。私たちのお金は大企業や国に貸しているだけでなく、戦争、環境破壊、爆弾のために使われていると聞いてすごくショックを受けました。いつ昔あつたような金融恐慌が起こるかもわからないし、ほとんどお金も増えないので貯金するメリットが少なくなっているなと思つました。小吹さんの発表にもあつたように環境破壊や戦争などの悪いことに使うのではなく、世のため人のためになることに使つていってほしいです。それを実現していくために自分が働きはじめ、貯金するようになった時に言われたとおり、金融機関をしっかりと調べ選びたいと思います。

24:今回小吹さんの話を聞いて、発展途上国への支援はボランティアや寄付金だけではないことを知ることができました。最近わりとよく目にしていたフェアトレードですが、どんなものなのかを知りませんでした。フェアトレードは相手と対等に取り引きできることがとても良い点だと思つました。そして身近なお店にもフェアトレード商品があることを知り驚きました。小吹さんたちの活動によってフェアトレード商品が少しずつ普及してきていて、このことが世界の困っているひとたちに少しでも役に立っているのを知り、「すごい」と思つましたし、これからも活動を続けていってほしいと思つます。私もこのお話を機にフェアトレード商品を買つてみようと思つます。次に聞いたマイクロファイナンスのお話はとても興味深いものでした。聞いたことのないお話で最初はよくわかりませんでした。話を聞いているうちにお金で人を助けることができ私たちのお金はこんなことに役に立つことができることに喜びと驚きを感じました。今まで私たちが銀行に預けているお金が何に使われていたのかも知らなかつたのであまり良くないことにも使われていたと聞いて、少し悲しくなりました。それを知らなかつたということ自体も少し恥ずかしく感じました。小吹さんのお話でそれを知ることができたので、これからはよく考えていこうと思つます。私たちのもつお金によって世界が少しずつ変えていけることを知ることができたのでいずれ実行したいと思つます。

25：僕はフェアトレードという言葉は知っていたけれどマイクロファイナンスについては全く何も知らなかった。なので今回、この機会をもってフェアトレードについて深く知ることができてよかったです。小吹さんがチョコレートを例えで使っていたので身近なものの例えだったので興味がわきました。日本が年間チョコレートを消費している量としては30枚と知って以外に少ないのだなと思いました。だけど、総合で見ると19位という数字には驚きがありました。国別で見ると6位で結構上位にすることがわかった。カカオの生産地については、今では西アフリカが生産量トップ3に入っているのを聞いて、僕の頭のなかではコートジボアールやガーナが浮かんだ。次に生産者にはどれくらいのお金が入ってくるのだろうかって話で仲買人などが入っていくと生産者に入るのはたった3円というのを聞いてそんな額であってよいのだろうかと思いました。そこでフェアトレードを行うと最低価格紙上になり価格に波がおこらないようにするのもよいことだとわかりました。こういった良い面の裏側には児童労働といった、あってはならない問題などが裏にはひそんでいる。児童労働は長時間労働、低賃金といった問題である。価格差が起こるのはなぜかと考えると、色々わかってくる、最低価格保障がある、日本のメーカーが作らず、全品輸入、チョコの定義が違うことである。例：ヨーロッパだとカカオ65%以上で、日本では15%以上（チョコ）で7%（ミルクチョコ）という点だ。こういった難点があるなか、フェアトレードを進めていかなければならないということはすごい大変なことだと思います。だから、僕もフェアトレード製品を買って貢献していきたいと思いました。マイクロファイナンスについては難しい話だと思っていましたが、僕たちが大人になっていくなかで必要な知識になっていくだろう話がいくつかあり、大いに役立つ知識になったと思います。この講演を受けて、知らなかったことが自分の知識になり、また知っている地識を深めていくといった考えがまた一つ自分のなかで増えたと思います。